

日本中の母親に訴える!!

# お・お・お・お・おの事故

全 2 卷 黒 白

桜映画社作品

監修	厚 生 省
企画	全国地域婦人 団体連絡協議会
協賛	生命保険協会
製作	山 高しげり
脚本	丸 山 章 治
演出	高 橋 佑 次
撮影	大 野 松 雄
音楽	宇 田 川 清 江
解説	

## 解 説

厚生白書の中にある死因順位表という統計をみてびっくりすることは、一才から十九才まで（つまり赤ちゃんからだんだんに成長して、いよいよ一人前の大人になるうとするまで）の死因の第一位を占めているのが不慮の事故死だということだ。

ところが事故による死亡の統計はあつても、その百倍から百五十倍にのぼるだろうと推定されている事故によるケガや不具の数はまだ統計されていないのです。事故がどんなに多くの人間の一生を破壊しているかは、思いをかばにすぎるものがあります。

とりわけ事故を問題にしなければならぬ理由は、日本の幼児の事故死亡率が世界の第一位にあるという事実です。

近年は病気に對する予防では、科学の進歩によつてめざましい成果をあげていますが、そのかぎに事故によるケガや不具の問題が、ともすれば忘れられていっているのではないのでしょうか。昨年あたりから交通事故のヒンパツがようやく注目をあつめはじめ、コドモを交通事故から守ろうというキャンペーンが、マスコミを通じて行なわれはじめ、それによつて事故に対する関心もようやく世間にたかまつてはきました。ただまだ問題提起の段階にとどまつていて、世をあげて事故予防の対策が行なわれるところまではいつていません。これはどういふわけでしょうか。

「不慮の事故」と一口に云われているように、事故が思いがけない事であつて、従つて人の力であらかじめ防ぎようのないもの、という考え方があつてはならないでしようか。思いがけない、ということの中には、よその人々の身の上には起るかもしれないが、マサカ自分や自分のコドモに起るとは思つてもいなかつた、とか、フダンからあぶないとは思つていたがマサカ死ぬとは思わなかつた、とか、マサカあんなことになるとは、マサカあんなところにくくは、マサカあんなところから落ちるとは、等々のマサカという根拠のない考え方がひそんでいて考えられます。そのために、人々の大多数は事故の起りそうな環境の中で、マサカマサカとムリに安心しながら、真剣になつて事故対策を考えることを怠つていふのだ、としか考えられません。

この映画では、ちいさいコドモの事故がどんな時、どんな風に起るかを、事実にもとずいてしらべながら、その対策を事実にもとずいて考えてみました。日本のオカアサンたちはコドモに対する深い愛情では世界の第一位にあるといえましようが、コドモを守るに必要な科学的合理的な考え方は不足しているように考えられます。従つて、この映画では、科学的合理的に事故の原因と予防を考えることを、中心にすえて、事故問題をとりあげました。ちいさいコドモの事故だけでなく、事故一般をこの世からとりのぞくにはどうしたらいいかを考えるための一助となることを念願しています。

## 内 容

(プロログ)

○ 無人踏切で死んだ子供の話

○ 用水堀に落ちて死んだ話

○ 横断歩道ではねられた子どもの話

(家庭内の事故)

○ 乳房による窒息

○ ビニールをかけられてもがく赤ちゃん

○ 縁側から下をのぞきこむ幼児

○ タバコやボタンを口に入れる幼児

○ 鋼貨や画鋏をのむ

○ 熱いスープレ鍋のつたテーブルクロスをひ

つばる

○ 言葉で叱つても効果はないこと

○ 階段をのぼる幼児

○ 二階のテスリに上るコドモ

○ アパートのベランダの手すりからのぞく

(農村の例)

○ 路傍の肥だめ

○ 農 薬

○ 流れに遊ぶコドモ

(子どもに遊び場を)

○ プランコ

○ 狭い遊園地

○ 広々としたゴルフ場

○ 往来で遊ぶコドモ

○ 路地からかけ出すコドモ

○ 自転車で遊ぶコドモ

○ 自動車の中から見たコドモ

○ 路を横切る母親とコドモ

(積極的な対策の例)

○ 沼津の通学用地下道

○ ヒバリが丘団地の保育園

(エピソード)

○ 買物の間乳母車にのこされたままのコドモ

以上の場面で起る様々の事件を、事例と対策を織りまぜながら、可愛い幼児、コドモの、自然のうごきの中に捉える。そして、コドモたちを事故から守ることはすべて大人の大きな責任であることを強調する。

十六ミリ 二卷 三三、〇〇〇円